

厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患政策研究事業
分担研究報告書

急性帯状潜在性網膜外層症に関する調査研究

研究分担者 九州大学医学部・眼科・教授 園田康平
東京女子医科大学眼科・教授・講座主任 飯田 知弘
三重大学大学院医学研究科眼科学 教授 近藤 峰生
研究協力者 山形大学医学部・眼科・医学部講師 金子 優

研究要旨：AZOOR は眼底には目立った所見を示さず、急激に視力低下や視野欠損を生じる網膜疾患である。現時点では原因も不明であり、国際的にも診断ガイドラインはない。しかし AZOOR は決して稀な疾患ではなく、一般の眼科医が疾患を正しく理解し診断するためのガイドラインが必要である。現在我々はこれまでの文献や専門家の意見を参考に、厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班を中心として、診断ガイドラインを作成中である。

A. 研究目的

急性帯状潜在性網膜外層症 (acute zonal occult outer retinopathy, AZOOR) は、1992 年に Gass が提唱した比較的新しい疾患概念である。若年女性に好発し、光視症を伴って急激な視野欠損で発症し、網膜外層を傷害することがわかっている。しかしながら、眼底写真や蛍光眼底造影はほぼ正常な所見を示すことから視神経疾患や頭蓋内疾患との鑑別が重要である。今回の研究の目的は、厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班を中心として、AZOOR を正しく診断するためのガイドラインを作成することである。

B. 方法

厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班を中心として、過去の文献と専門家の意見を参考にしながら診断ガイドラインを作成する。

(倫理面への配慮)

現時点では診断ガイドラインを作成している段階であり、調査は行っていないため倫理的問題はない。ただし、今後の調査にあたっては新指針に沿って個人情報の扱いに十分な注意を払う。

C. 結果

以下の5項目を中心に診断ガイドラインを作成した。1) 急激に発症する視野欠損。片眼性が多いが、両眼性もありうる。2) 眼底検査およびフルオレセイン蛍光眼底造影検査で、視野欠損を説明できる異常が認められない。症例によっては軽度の異常がみられることはある。3) 光干渉断層計(OCT)にて、視野欠損の部位に一致して網膜外層の構造異常(ellipsoid zoneの欠損あるいは不鮮明化)がみられる。4) 全視野網膜電図(full-field ERG)において振幅の低下、あるいは多局所網膜電図(multifocal ERG)において障害部位に一致した振幅の低下がみられる。5) 先天性/遺伝性網膜疾患、網膜血管性疾患、ぶどう膜炎、外傷性網膜疾患、視神経疾患、および中枢性疾患が除外できる。

D. 考案

診療ガイドライン作成により疫学調査が可能となり、治療法開発に向けた臨床研究や予後予測に有用な臨床情報の収集が可能になると思われる。

E. 結論

この診断ガイドラインは、一般の眼科臨床医がAZOORを正しく診断する際に役立つ情報を提供できると期待される。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

